

京都丹波の教育

南丹教育局 NEWS

第71号 平成25年8月22日

Q なぜ、給食が好きですか？

掲示物の充実

第1回「弁当の日」の取組

〇児童の手洗い
・手洗いの大切さの指導
・液体石けんで

「食べることは生きること」

まとめ
★朝食を質と量を充実する食習慣を

～平成25年度南丹地区食育・学校給食研究協議会～
食事基本メニュー

8月6日(火)南丹市日吉町生涯学習センターで、平成25年度南丹地区食育・学校給食研究協議会を開催しました。当日は、幼稚園、小学校・中学校、府立学校の教職員をはじめ、学校給食調理場等から約100名の方々の参加がありました。

▶実践発表『「生きる力」をはぐくむ食の指導と安全管理』

給食そのものは亀岡市立学校給食センターで作られるため、学校では異物混入時の対応や配膳時の身支度、手洗いの大切さ等、みんなが安心して楽しく給食をいただけるように衛生面に気を配っておられることを中心に発表いただきました。

また、昨今増えている食物アレルギーへの対応については、教職員研修を行い、代替食・除去食の対応等について職員全体で共通理解を深めておられます。

日常の給食指導だけではなく、道徳や生活科などの教科でも食に関する指導が行われており、大変参考となる内容でした。



▲亀岡市立詳徳小学校
井尻 智子 教諭

▶実践発表「食に関する指導の充実を目指して」

給食に対する意識や食生活に関する調査を行い、その結果が食に関する掲示物作りや担任と栄養教諭によるTT授業に活かされていることを詳しく教えていただきました。掲示物には大きな絵や文字を使い、内容もクイズ形式にするなどして、子どもたちが楽しく学べるよう工夫されています。さらに、食材や食事マナーの指導に役立つ「給食メモ」も配付されています。

また、給食配膳員さんを招いた交流給食について、子どもたちが配膳員さんに質問や話をしながら給食を食べている写真が紹介され、その楽しそうな雰囲気が伝わってきました。



▲南丹市立園部小学校
野中 明子 栄養教諭

▶特別発表『「弁当の日」の取組をととして』

昨年度の本研究協議会において御講演いただいた竹下 和男先生が提唱された「弁当の日」の取組を、南丹市からの指定を受けて熱心に取り組んでおられます。

1年生から6年生までの全児童が、地域の方々や南丹市食生活改善推進員さんなどを講師に、梅干し作りや野菜作りを行った様子などをスライドを通して発表いただきました。弁当を作った子どもたちの自信に満ちた笑顔が特に印象に残っています。

地域の人の温かさに触れ、豊かな自然の恵みを体験しながら育まれている子どもたちの今後の取組が楽しみです。



▲南丹市立富本小学校
長谷川 昌子 養護教諭

甲子園大学で教鞭をとられている木村 祐子准教授をお招きし、御講演をいただきました。

木村先生は京都府スポーツ推進審議会委員として御活躍されるとともに、実業団で活躍する選手の栄養指導を行ってこられたスポーツ栄養学の専門家です。その専門的な知識やこれまでの研究結果を基に、成長期の子どもたちに必要な栄養や食生活の在り方をはじめとして、熱中症対策に効果的な水分補給の方法や食物アレルギーに至るまで、幅広く御教授いただきました。講演中に「食べることは生きること」という言葉があり、健康的な心身をつくるためのバランスのとれた食生活や、食習慣の大切さについて改めて考える機会となりました。



▲甲子園大学 木村 祐子 准教授
講演「成長期における発育・発達と食の重要性」

■参加者アンケートから■

- ・健康な成長と食育が重要なかわりを持つということが改めて分かった。また、適切な水分の摂り方、アレルギーに関わることなど現在の問題にマッチした内容が多くあり、よかった。
- ・食事(朝食)の大切さや、摂取の仕方が分かってよかった。水分補給についても詳しい説明があり、2学期の運動会に向けてハードな練習が続くので、子どもに伝えたい。
- ・「早寝、早起き、朝ごはん」というテーマの重要性を改めて感じた。朝ごはんの内容についても、効果的なものになるように家庭と連携することが大切だと感じた。



▲講演の様子

■参加者アンケートから■

- ・他の教科との連携や食に関する興味・関心の持たせ方、日々食している物がどのようにして作られているのかなど、子ども自身の学びの多さを感じた。
- ・給食を中心とした食に関する指導について、興味深く聞かせていただいた。アンケート調査結果から、朝食が「主食のみ」が多かったという課題に対する取組に期待したい。
- ・各学校が食を大切に子どもたちを育てるために、細やかな指導の中で進められていることが伝わってきた。食育は色々な場面や機会をつくり出していかなければできないと改めて思った。
- ・「弁当の日」の取組の中でも、特に地域の方々との交流がとても温かいもので心打たれた。地域の方なくてはできない取組だと思った。地域の人、家の人への感謝の気持ちが自然と生まれるようなとてもよい取組で、とても興味深いものだった。